

聖書：第二サムエル記 12章 15b～23節

説教：あの子は戻っては来ない

1 罪と死

1) ダビデの罪

ダビデは、ウリヤの妻、バテ・シェバと一夜をともにし、それからまもなくしてバテ・シェバが妊娠をした事を知らされました。これが国中に知れ渡れば大スキャンダルです。すぐにもみ消し工作を始めます。ダビデは、イスラエルの王の地位を利用して、ウリヤを最も戦いの激しいところに送り込むようにと命令し、ウリヤを殺してしまいます。

目的は達成されました。しかし神の目は節穴ではありません。神は預言者ナタンをダビデのところに送り、ある一つのたとえ話を語らせました。富んでいる人のところに旅人が来た。富んでいる人は、旅人をもてなすために、自分のところにある羊を料理するのはもったないと考えた。そこで彼は、隣の貧しい人の一匹しかいなかった雌の小羊を取り上げて、それを料理した。そんなたとえ話でした。

これを聞いていたダビデは、激しく怒り、こう叫びます。「あわれみの心もなくこんなことをするような男は死刑だ。」すかさず、ナタンは言います。「あなたがその男です。」

このようにして、ダビデの行ったことが主のみこころをそこなった。ことがダビデに知らされました。自分が今神のさばきの刃の真下に立たされており、そこから絶対に逃げられないことを悟ります。青ざめた顔で、「私は主に対して罪を犯した」と告白するしかありません。この告白により、ダビデの罪は赦されはします。しかし神は、生まれてくる子どもは必ず死ぬと言われました。今日はその

続きとなります。

2) なぜ子どもが死ななければならないのか

15節の後半を読みます。「主は、ウリヤの妻がダビデに産んだ子を打たれたので、その子は病気になった。」ダビデはこの子どものために必死で祈るのですが、七日目に死んでしまいます。神が言われたとおりになりました。ここには、「ウリヤの妻がダビデに産んだ子」と書いてあります。聖書はダビデの罪を誤魔化しません。子どもが死んだのは明らかにダビデの罪のためであると言っています。

さあ、皆さんはこれを読んでどう思いますか。「ダビデが罪を告白したので罪を赦された。それはわかる。けれども、どうして罪もない子どもが死ななければならないのか。子どもが何かをしたのか。これでは、あまりにも子どもがかわいそうだ。」誰もが思う疑問です。

あるいは、こういうことでしょうか。ダビデの罪を簡単に赦すことはできないということだろうか。やはり罪を犯したのなら、それに相当する苦しみを味わわなければならない。それで神は子どもを殺した。もしそうだというのなら、大変なことになります。罪を告白したとしても、ただでは赦されないということになります。でも、私たちはただ罪の告白によって救われるのであり、何かを要求されることは絶対にない。それが私たちの信仰であるはずです。なのにどうしてダビデの場合、産まれた子どもは死ななければならない

なかったのか。なにかダビデに特有の事情があったと考えなければなりません。

2 断食と食事についての家来たちの疑問

子どもが病気になったとき、ダビデは断食をし、地にひれ伏しながら神に祈りました。家来たちが来て、起きて食事をしてくださいと頼むのですが、ダビデは起き上がろうとせず、食事もとらず断食します。しかし七日目に子どもが死んだと聞かされたとき、ダビデは起き上がり、服を着替え、食事を整えさせます。

それを見た家来たちは、ダビデのしていることが理解できません。普通なら、家族が亡くなると悲しみで食事のどを通らない、そんなふうにして断食するのに、ダビデのしていることは順序が逆だからです。それで家来はその理由を尋ねました。ダビデはこう答えています。22, 23 節。「子どもがまだ生きていた時に私が断食をして泣いたのは、もしかすると、主が私をあわれみ、子どもが生きるかもしれない、と思ったからだ。しかし今、子どもは死んでしまった。私はなぜ、断食をしなければならぬのか。あの子をもう一度、呼び戻せるであろうか。私はあの子のところに行くだろうか、あの子は私のところに戻っては来ない。」

ダビデが言っている事の前半部分は理解できます。子どもが病気なり、このままではもしかして死ぬかもしれないというとき、親ならばだれでも必死になって神にお願いするでしょう。どうか助けてください。私が断食をしてそれで助かるというのなら、喜んでそうします。ダビデもそうした。そこまではよい。

ところが後半はどうか。子どもが死んだと

聞いたら、さっさと起き上がり、お風呂に入り、身なりをきれいにし、ごちそうを食べる。これが理解できません。もし自分の子どもが死んだらどうするだろうと想像します。とても食事のどを通らない。どんな服を着るかなど、そんなことはどうでもよい。ひたすら悲しむはずです。ところがダビデは、子どもが死んだことを悲しむそぶりも見せません。死んだ者はどうせ帰ってこないのだから、めそめそしていたってしかたがない。気持ちを切り替えて新しく出直しましょう。そんなふうに見えてしまいます。実際、24 節を読むと、ダビデはまるで何もなかったかのように、バテ・シェバを正式な妻に迎えていく。ダビデは本当に反省しているのか。ここではあまりにも子どもがかわいそうです。

ダビデがなぜこのような態度をとるのでしょうか。

3 人にはできないこと、神がなさること

1) 会堂管理者ヤイロの願い (マルコの福音書 5 章 23 節)

ダビデの説明にもう一度目を留めます。23 節の最後です。「あの子は私のところに戻っては来ない。」そのとおりです。死んだ者は帰って来ません。死んでしまったらおしまいです。だから生きている間に必死にお願いするので。

マルコの福音書 5 章 23 節に出て来る会堂管理者ヤイロもそうでした。彼はイエスの足もとにひれ伏して一生懸命願いました。「私の小さい娘が死にかけています。どうか、おいでになって、娘の上に御手を置いてやってください。娘が直って、助かるようにしてください。」これを聞いてイエスはヤイロの家に向かおうとしたのですが、途中で別の事件

が起き、手間取っているうちに、ヤイロの家から使いの者が走ってきました。そして、お嬢さんは亡くなりましたと言うのです。ヤイロが来てイエスにお願いして家に向かい始めたときは、小さな光がともった感じがしました。もしかして助かるかもしれない。ところが、イエスは間に合わなかった。ダビデが言うように、「あの子は私のところに戻っては来ない。」ヤイロもそう思って真つ暗闇に突き落とされました。でもイエスはそんなヤイロに、まるで何事もなかったかのようにこう言うのです。「恐れなくて、ただ信じていなさい。」そして、ヤイロの家に向かい、娘をよみがえらせていく。それがマルコの福音書に書かれていることです。

2) 父なる神：ダビデの子孫として来られる子を取り戻す

ダビデのことに話を戻します。ダビデは子どもが病気になったとき、七日間地にひれ伏し、神に願い続けました。もしかすると主が自分をあわれんでくださって、子どもを生かしてくれるかもしれないと期待しました。でも願いはかないません。ヤイロの娘は助かったのに、どうしてダビデの願いはかなわず、子どもは死ぬのか。

もう一度確認します。子どもが死んだのはなぜか。ダビデの罪のためです。そのことのゆえに生まれてくる子どもは必ず死ぬと宣告されました。ダビデの罪が赦されていくために、だれかが死ぬ必要があると神は教えているのです。ダビデはそのことを最初は理解していませんでした。けれども七日間地に伏しながら祈りながら、次第に教えられていきました。ダビデはこんな風に神から語りかけられたと考えることができます。

「ダビデ。あなたはウリヤの妻であるバテ・シェバに産ませた子どもを失っていく。あなたの罪のためあの子どもが死ぬ。そのことをあなたは苦しみながら知らなければならない。なぜなら、あなたがいま経験していることと同じことを、父なる神も味わっているのだから。愛するひとり子イエス・キリストを、やがて十字架で失っていく。罪のない子どもが、人の罪を背負って死んでいくことが、父なる神にとってどれほどつらいことなのか。あなたも経験しなさい。

でもこの苦しみは絶望では終わらないことも教えよう。確かにあなたは、死んでしまった子どもを取り戻すことは絶対にできない。けれども、神はご自分のひとり子を墓の穴から取り戻します。そのことを必ずします。だからいま恐れなくて、そのことをただ信じていなさい。」

ダビデは子どもが死んだと聞いたとき、やがて来られる救い主が必ず死なれることを知ります。ここで死んでいく子どもは、やがてダビデの子孫として来られるイエス・キリストと重なっていたのです。ダビデの罪を背負って、子どもが死にます。ダビデは死んだ子どもを取り戻すことはできません。けれども、神は必ず取り戻してくださる。イエスがヤイロに語ったことば。「恐れなくて、ただ信じていなさい。」このことばはダビデにも語られています。どんなことをしても、自分は死んだ子どもを取り戻すことはできません。けれども神は必ずダビデの子を取り戻してくださる。そのことを信じたとき、ダビデは食事をとることに決めます。

さて、最後に確認します。ダビデのようなことは私たちの身にも起こるのでしょうか。あなたの罪が赦されるためには、あなたの家

族のいのちが必要だと、言われるのでしょうか。安心してください。彼は、神から油を注がれイスラエルの王となった人です。神はこのダビデを通して、神がどのようにして罪人を救おうとされるのかを示そうとします。選ばれた者は大変です。父なる神はこのように苦しむのだということを、ダビデも経験させられていくからです。

私たちはダビデと違います。ダビデのように特別に選ばれてはいませんから、ダビデのようなことは要求されません。なぜなら、イエス・キリストが私たちの罪のための完全な贖いとなってくださったからです。もう誰も死ぬ必要はありません。そればかりか、イエス・キリストがよみがえられたことも教えられています。あるとき、私たちは親しい家族を失い悲しむようなことが起きてしまいます。けれども、恐れなくて信じていないと、主は語り続けます。

十字架のみわざを覚えたいと願います。